

キリストへの時間

「キリストへの時間」協力委員会報

礼拝は場所を選ばない～世界初のラジオ放送から100年～

名古屋学院大学 キリスト教センター 柳川 真太郎

今年2020年は、世界で初めてラジオ放送が行われてから100年を迎える記念すべき年となります。

世界初のラジオ放送は、アメリカのウェスティングハウス社が1920年に開設した「KDKA」という放送局が行ったと言われています。同社の無線技術者として働いていたフランク・コンラッド（1874～1941）は、当時、自宅に無線実験の送信機を設置し、レコードの定時放送を行っていました。彼の放送は、アマチュア無線家のリスナーの間で評判になり、遂には、「コンラッド氏の定時放送が聴ける受信機を販売しています」という広告を出す店まで現れるほどでした。すると、その広告を見た同社の副社長は、受信機を普及させるため、より良い番組を提供することを思いつき、コンラッドを含む複数の従業員を呼び集めて、ピッツバーグにある自社の工場にスタジオや送信機を設置することにしました。これが世界初のラジオ放送局「KDKA」の歴史の始まりです。

彼らが最初に放送した内容は、その年の11月2日に行われたアメリカ大統領選挙の開票速報でした。速報の合間をレコードの音楽で繋ぎながら真夜中まで行われたその放送は大成功だったそうです。翌年の1月2日には、遠隔地からの放送をテストするために、同じピッツバーグにあるCalvary Episcopal Churchの日曜礼拝が中継されることとなり、これがより多くの人々の関心を集めることとなりました。なお、主任牧師が難色を示したため、その日に説教を担当したのは若い牧師だったとか。KDKAによる日曜礼拝の放送は、その後、1962年までレギュラー番組として続けられました。

さて、2019年11月に中国の武漢市で発生し、瞬く間に世界中に拡大していくこととなった新型コロナウイルス感染症は、日本にも多大な影響を及ぼし、多くの人々がその犠牲となりました。キリスト教界では、

感染拡大防止のための様々な取り組みがなされ、ミサや礼拝の中止という決断を余儀なくされる教会もありました。戦争や大災害の最中でさえ、平和と回復を願う信者たちの祈りによって連綿と続けられてきた礼拝が、目に見えないウイルスの脅威によって中止せねばなくなるなど、一体誰が予想できたでしょうか。

礼拝への出席を制限、あるいは禁止することを決定した教会の中には、教職者や数人の奉仕者のみで行われる礼拝の様子をインターネットで中継したり収録配信したりする教会もありました。もちろん、このような新しい試みには賛否両論あるとは思いますが、それでも、実際にインターネットで配信される礼拝の映像に勇気づけられた方々は決して少なくないでしょう。振り返りますと、およそ100年前、世界ではじめて礼拝説教を通して語られた「福音」がラジオの電波に乗って人々の耳に届けられた時、その放送を誰よりも楽しみにしていたのは、教会に足を運ぶことのできない人たちでした。ラジオから聴こえてくる御言葉、賛美、説教、祈りの声によって、多くの人が、教会に集まる人たちと共に礼拝に参加することができるようになったのです。

集会としての礼拝は、人が集まる場が無ければ成立しません。しかし、「わたしはあなたと共にいる」と言われた神への“礼拝という行為”自体は、場所を選びません。『キリストへの時間』を毎週楽しみにしてくださっている皆さまも、まだ聴いたことがないという皆さまも、ぜひ私たちの放送を通じて、御言葉に耳を傾けつつ、それぞれの場所でご一緒に豊かな礼拝のひと時をお過ごしください。

（愛知県に緊急事態宣言が発令された4月10日、悲壮感と閉塞感の漂うこの世界の回復と平安、新型コロナウイルス感染症の終息を心から願いつつ。）

「土の塵で形づくられた人」

日本キリスト改革派那加教会牧師 小橋口貴人

主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。

創世記2章7節

1. 土の器

聖書は「神様が、土の塵で人を形づくられた」と教えます。土で人を形作り、その鼻に命の息を吹き入ると、人は生きる者となった。私たち一人ひとりが、そのように神様によってつくられて、今は長生きすれば100年近い人生をこの地上で生きることになります。人生の長さは人それぞれですが、やがて魂は神様のもとに召されて、体は土に還っていきます。いま、日本では土葬ではなく火葬しますが、以前は日本でも人が亡くなれば土に埋めていました。人間のからだは、水やカルシウムや窒素や・・・様々な物質で構成されているようですが、土に埋めれば土に還っていきます。

みなさんは、心が少し疲れたなあと感じる時何をしますでしょうか？ 少し体を動かして、運動をしてみたり、あるいは都会から離れたところに出かけて行って、大自然の中で休んだり。

最近聞いた話ですが、人によっては、心が病んだり、ちょっと疲れた時には、土いじりがすごくよいそうです。庭や畑に行き、とにかく土を触るんだそうです。ガーデニングをして、お花を育ててみたり、畑仕事をして野菜や果物を育てたりしていると、心が癒される。少しずつ調子が良くなっていくということがあるそうです。

もともと土で形づくられた存在ですから、土を触ることで癒されるというのは、そうなのかもしれないなあと思います。

2. 傷つけあうのではなく、労わりあいながら

聖書は、私たち人間を「土の器」と表現します。一人ひとりは、土で作られた「土の器」です。わたしたち人間を「土の器」に喩えることで、人は弱い存在な

んだということを教えているのではないのでしょうか。ダイヤモンドや金のように、硬くて丈夫な、キラキラ輝く素材で作られたのであれば、見栄えもするし、ちょっとやそっとのことで割れてしまうことはないでしょう。

しかし、わたしたちは土の器なのだと言聖書は教えているのです。土の器は、ひどい扱いを受ければひびが入ってしまうし、厳しい環境に置かれていれば割れてしまうことだってある。いろんなところに傷を作りながら生きていく弱い存在なのだということを教えていると思います。

土の器である私たちは、決して強い存在ではありません。大切に扱ってもらわないと、すぐにヒビが入り、割れて壊れてしまうような弱い存在です。

だから、イエス・キリストは「あなた方は互いに愛し合いなさい」と教えられました。互いが互いを大切にして、愛し合って生きていきなさいと教えます。もし私たちが傷つけあうことを始めれば、わたしたちは土の器ですから、どちらかがひび割れて、壊れてしまう。あるいはお互いに傷ついてしまうでしょう。だから、土の器である私たちが生きる道は、互いに傷つけあう生き方ではなく、互いに労わりあい大切に生かす生き方であると、イエス・キリストは教えられたのです。

3. 命の息を受けて

もう一つ、神様は土の器である私たちが生きていくために必要なことを教えています。もう一度先ほどの聖書の言葉を読みます。「**主なる神は、土（アダマ）の塵で人（アダム）を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった**」。私たちが生きていくために必要なこと、それは、神様から「命の息」を吹き入れていただくことです。

車はガソリンを入れなければ走りません。花は水をあげなければ枯れてしまいます。同じようにわたしたちは「命の息」を吹き入れていただかなければ、生きる者にはならないのです。

日曜日の朝を迎えました。キリスト教会では礼拝がささげられる日です。お近くの教会に足を運んでみてはいかがでしょう？キリストの教会では何がなされているのだろうと思う方もあるかもしれません。ぜひ一度足を運んでみてください。

私たちはこの日曜日、神様を礼拝し、聖書の言葉に耳を傾けながら、土の器として生きる道を教えられたと思います。私たちが壊れやすい存在であること。

たくさんの傷を受けながら生きてきたこと。また、周りの人々を傷つけながら生きてきてしまったこと。祈りのうちに、また賛美の歌を歌う中で、主なる神に告白し、改めて互いに愛し合い労わり合う生き方を学びたいと思います。

お一人お一人が、神様から「命の息」を吹き入れていただく日曜日となりますように。

放送日：10月6日（日）

2019年度「キリストへの時間」会計報告

2019年4月1日～2020年3月31日

キリストへの時間. 収支計算書（2019年度）

収入の部	決算	支出の部	決算
日キ教団. 教会献金	276,000	電波料	3,557,760
日キ教団. 個人献金	539,000	会報印刷	134,820
改革派. 教会献金	860,726	会場費	3,000
改革派. 個人献金	188,000	庶務費	4,431
金城学院関係	1,308,000	通信費	44,190
名古屋学院関係	490,000	委員会費	3,760
岐阜済美学院関係	320,000	基金へ	
その他. 利息等		郵便振替手数料	20,067
小計	3,981,726	小計	3,768,028
前期繰越	335,473	次期繰越	549,171
合計	4,317,199	合計	4,317,199

「献金者」

■学院関係（複数回献金学院を含みます）

金城学院	名古屋学院	岐阜済美学院	名古屋学院大学	中部学院大学. 宗教委員会
1,008,000 円	170,000 円	300,000 円	320,000 円	20,000 円
金城学院みどり野会				
300,000 円				

■日本基督教団（複数回献金教会を含みます）

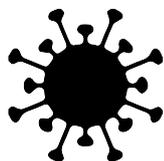
愛知教会コーヒーコーナー	春日井教会	御器所教会	豊橋教会	鳴海教会
愛知西地区教会婦人会連合	華陽教会	瀬戸永泉教会	豊山教会	西尾教会
愛知守山教会	刈谷教会	中京教会	名古屋北教会	日進教会
熱田教会	金城教会	天白教会	名古屋教会	半田教会
大台めぐみ教会	金城教会社会福祉委員会	鳥羽教会婦人会	名古屋桜山教会	尾陽教会
岡崎教会	金城教会 C C	豊田教会	名古屋中央教会	津島日光川燈台伝道所

■日本キリスト改革派教会（複数回献金教会を含みます）

中部中会	太田教会	八事教会	春日井教会	四日市教会
中部中会信徒研修会	豊明教会	金沢教会	中津川教会	桑名教会
中部中会連合婦人会	津島教会	犬山教会	瑞浪教会	
大会長老会	岐阜加納教会	犬山教会姉妹会	那加教会婦人会	
名古屋教会	岐阜加納教会婦人会	犬山教会兄弟会	那加教会	
名古屋岩の上教会	多治見教会姉妹会	春日井教会サフラン会	関キリスト教会	

■個人献金者（複数回献金者を含みます）

麻田雅子	川口正・美智子	田口博之	馬場暁美	村瀬文男
足立克己	河村輝昭	田口恵実	林 滋	森前陽子
安達昭子	神田輝夫	田口靖章・愛子	樋田紀子	山田春日
安野美根子	神部一子	竹内織江	藤沢礼子	山田詩郎・麻衣子
石原頼子	菊池すみ子	武内和彦	藤條聡美	山田紀子
石丸万里子	木村綾子	竹内治枝	藤條聡杏	横山良樹・ゆずり
伊藤敦・八千穂	木村智恵子	竹内喜保	藤條聡彦	吉田香代子
伊藤勝利	木村艶子	塚田 昇	藤條淳子	佐藤千葛子
伊藤まり子	黒木伊津子	塚本千尋	藤本岩夫	青山昭一郎
伊藤道子	児島千香子	津田康裕	平屋貴美子	石井正治郎
井戸美代子	小谷治郎	戸田喜代子	堀田時男	伊藤忠男
岩佐敏志	小寺英明・正子	戸田安士	堀田時男・秀子	井上義明
榎本久美恵	小林成隆	永井 花	堀江桂子	況 暁麗
榎本弘子	小森純江	長津 榮	本間愛子	竹澤芙美子
遠藤幸代	榎原いづみ	中野悦美	前田栄子	中根汎信・文江
遠藤芳男	榎原善夫・有子	中村寿子	牧野愛子	西堀則男
大島 隆	篠田聡生	成井和子	牧之瀬俊彦・留津	長谷川正一
太田弘子	篠田恵見	成瀬伸子	町田玲子	羽野浩雪・環
大塚美七子	柴川久仁子	新美洋子	松田喜代	三田村苗美
岡本正治	柴川マリ子	西川道子	松本勝正	匿名
奥田英子	下村徹嗣	野田和子	宮内英夫	
落合健仁	新海美智子	長谷川千代子	宮地潤子	
加藤順子	関 光徳	服部治昭	村上聡恵	
神村雅子	高田俊夫	花木和子	村瀬明子	



コロナウィルス感染症対策とわたしたち

「キリストへの時間」協力委員会委員長 横山良樹

コロナウィルス感染症に世界が揺れた数か月、まさか生きているうちにこのような事態に立ち会うことがあろうとは思っていませんでした。それはおそらくみなさまの実感でもありましょう。

今回、わたしたちを一番悩ませているのは、このウィルスの感染力です。「三密を避けてください」「不要不急の外出を控えてください」がスローガンとなりま

したが、しかし、人間は「ひとのあいだ」と書くように、ひとりでは生きていけず、人と関わりをもって生きることを本質とする社会的動物です。愛情をそそぐ対象や、家族や、学校や、職場や、サークルや、ボランティア活動など何らかの集団に帰属することで、みずからの役割を得て、生きる意味と目的を常に確認して生きる存在です。おまけに、現在わたしたちの生き

る世界の仕組みは、みなそれぞれ分業を行い、それを市場で売ってお金を稼ぎ、それらを分配する大きなシステムで動く協業体制です。ですから人と人が会ってやりとりをして初めてモノが動き、お金が流れます。これがまるで身体を動かす毛細血管のように全世界にはりめぐらされた状態がグローバルネットワークと化した20世紀以降の資本主義経済のかたちでした。しかし今回のコロナウィルスはそこを痛撃しました。国と国が互いの門戸を閉ざし、人の出入りを厳しく制限した結果、世界は血の巡りの悪い体のような不健康な状態になってしまいました。こうした状態がいつまで続くのか、治療法がまだ確立していない現状では、各界の責任者は警戒を緩めることは出来なんでしょう。

コロナウィルスの脅威が身に迫りだしたのは、地方在住のわたしの体感では2月半ば頃でした。3月からは学校が一斉に休校となり、そこからはあっという間でした。日常が侵食され、あれよあれよという間に、非・日常に変じてゆきました。この期間、わたしは社会がこの未曾有のウィルスにどのように立ち向かうのか、その中で、自分の仕えている群れをどのように守るのか、具体的には教会の礼拝をどうしたらよいのかを考え続けました。いろいろな方の意見に耳を傾けました。そのなかで祈り、最善と思われる道を選択して今日に至ります。

この数か月のあいだ、ふりかえるとわたしは、この事態を時間の問題に置きかえて考えていたように思います。わたしたちの命は時間であらわせます。時間はまたお金にも換算されます（時給はわたしたちの命の時間を切り売りした対価と考えられます）。2月に葬儀をした教会員の一生は56年8ヶ月と19日でした。この滞在時間を分単位に換算することも出来るでしょう。わたしたちはこのように時間としての命を神さまから貸し与えられて生きる存在です。そして、その時間は、イエスさまが来られて2020年目という神の御支配のなかに置かれています。イエスさまの説教は命とお金に係わるものが多いのですが、それがわたしたち人間の急所だとよくご存じであったからでしょう。わたしの命が、コロナで召されるのか、癌で召されるのか、他の病気か、事故かは不明です。お風呂場で亡くなった教会員もいました。いずれにせよ、わたしに与えられている時間は神さまの御手のなかにあり、終わりの日を知ることも、地上での滞在時間を知ること

も、わたしにはできません。ただ一日の時間、一週間の時間、一年の時間は確定しています。一日は24時間。一週間は168時間と言ったように。そのなかで、わたしたちは自分の考えに従って命としての時間を割り振り、「消費」していることになるのでしょうか。

この168時間（一週間）のなかで、神さまにささげられた時間はどれくらいでしょうか。一日の中で祈る時間や、神さまのために奉仕する時間などもあるでしょうが、神さまから特別に「取り分けるように」（聖別するように）と十戒で命じられている安息日は、キリスト者にとっては日曜日です。日常を中断し、神さまにささげる時間を持つこと、それはわたしたちにとって、大切な献身のしるしでした。とくに高齢の信徒は日曜日の礼拝にむけて一週間の体調を整えておられる方が多い印象です。御言葉に聴き、神さまを賛美し、交わりの中に身を置いて、リ・フレッシュし、リ・クリエイトされて日常の歩みへと送り出される命の連環がコロナウィルスによって脅かされたのでした。教会に「命を守るために」来ないようにと告げる牧師も、自他の命を尊重するために教会出席を断念する信徒も、ともに苦渋の決断であったと思います。代替手段としてオンライン礼拝や、ウェブでの配信がありましたが、スマートホンや、パソコン環境の整っていない高齢の方も多く、そうした方々に、ラジオ放送「キリストへの時間」がありますよ、と勧めることが出来たのは本当に感謝なことでした。

あの日、朝早く主イエスの墓に向いた婦人たちのように、日曜朝6時半に、御言葉とともに聴くことが出来る喜び。キリストの命のうちに死は飲み込まれ（墓は空でした!）、新しい希望と約束が与えられた日、1週間のうちの「15分」のラジオによる礼拝放送、御言葉の説き明かし、それがわたしたちの命に火をともし時間となります。慰めを指し示す時間、キリストとの出会いを促す時となります。

御言葉に聴くことのない社会に真の休みはないのだと思います。聖霊による人知をこえた平安を、域内に住むすべての人に届けるために、この放送の働きの意義は増しています。

継続のための献金にもご協力くださいますよう、お願いいたします。

「東から西から」(レスポンス報告)

放送をお聴きになった新しい方々からのお便りはコンスタントに届きます。「聖書を送ってほしい」「キリスト教について詳しく知りたい」などのハガキを受け取る度に、主が放送を用い、お一人お一人に働きかけてくださっている不思議を味わいます。

多くの場合は愛知、岐阜、三重などCBCラジオエリア内の方々からのお便りです。けれども最近はインターネット「radiko(ラジコ)」を通して放送を聴いておられる全国の方々からもレスポンスが届くようになりました。中部地方から転居された後も聞き続けてお

られる方や、友人から紹介されたとおっしゃる方がおられます。直近では関東や九州の方々から放送への励ましや感謝の声が届きました。

「恐れるな、わたしはあなたと共にいる。わたしは東からあなたの子孫を連れ帰り西からあなたを集める。」(イザヤ書43:5) 主が神の民を東から西から集めておられることを信じ、感謝いたします。主が御業がこれからも前進しますように。

「キリストへの時間」協力委員 山田詩郎



「キリストへの時間」放送予定 2020年7月～12月

7月

5日 柳川真太朗(名古屋学院大学キリスト教センター職員)
12日 黒柳志仁(名古屋学院大学国際文化学部准教授)
19日 琴ひかる(名古屋中学・高等学校 聖書科教諭)
26日 大藪博康(名古屋中学・高等学校 宗教部長)

8月

2日 横山良樹(日本基督教団半田教会牧師)
9日 横山良樹(日本基督教団半田教会牧師)
16日 榮 巖(日本基督教団春日井教会牧師)
23日 榮 巖(日本基督教団春日井教会牧師)
30日 和田芳子(日本基督教団東海教会牧師)

9月

6日 黄 敬 秀(日本キリスト改革派長久手教会牧師)
13日 黄 敬 秀(日本キリスト改革派長久手教会牧師)
20日 相馬伸郎(日本キリスト改革派名古屋岩の上教会牧師)
27日 相馬伸郎(日本キリスト改革派名古屋岩の上教会牧師)

10月

4日 八 東 清(日本基督教団御器所教会牧師)
11日 八 東 清(日本基督教団御器所教会牧師)
18日 大住共平(日本基督教団知立伝道所牧師)
25日 大住共平(日本基督教団知立伝道所牧師)

11月

1日 高木総平(岐阜済美学院 宗教総主事)
8日 高木総平(岐阜済美学院 宗教総主事)
15日 高木総平(岐阜済美学院 宗教総主事)
22日 西島麻里子(済美高等学校 宗教主事)
29日 西島麻里子(済美高等学校 宗教主事)

12月

6日 金 起 泰(日本キリスト改革派犬山教会牧師)
13日 金 起 泰(日本キリスト改革派犬山教会牧師)
20日 木下裕也(日本キリスト改革派岐阜加納教会牧師)
27日 木下裕也(日本キリスト改革派岐阜加納教会牧師)

「キリストへの時間」協力委員会 編集発行人 横山良樹

郵便振替 00880-1-70404・キリストへの時間

キリスト教や聖書についてご質問のあるかた、この放送についてのご意見ご感想のあるかたは、以下にお便りください。また、ご希望の方には新約聖書を無料でお送りいたします。

〒461-8691 名古屋東郵便局私書箱170「キリストへの時間」まで

CBC ラジオ「キリストへの時間」(1053kHz) 毎週日曜日 朝6時30分～6時45分放送